

因果応報

「騙されて良くなり 悪くなつては駄目」

「いじめられて強くなり いては駄目」

「踏まれて起きあがり 倒れては駄目」

「いつも心は燃えていよう 消えてしまつては駄目」

「いつも瞳は澄んでいよう 濁つてしまつては駄目」

詩人（故）坂村真民さんは非常に苦勞された方です。

苦勞されたからこの詩ができたのでしよう。

人から騙されれば、普通次は誰かを騙し奪つてやろうと考えます。

実際に真民さんも人を騙したことがあるのかもしれない。

しかし、人を騙したことによりその何倍もの悪い報いを受けている最中の心の葛藤が苦しかったのでしよう。

騙したところで長い目で見れば、結局は失うものの方が多いことに気付いたのでしよう。だから騙されても、心は穏やかにしていきましょう。心を鬼にしてはいけません。悪くなつては、結局辛いのは自分ですよ、と言っているのだと思います。

いじめられても、踏まれても、心は澄んでいる自分、瞳は輝いている自分をつくっていきましよう、という詩です。

コレが人生の修行なのでしよう。この生き方こそ、仏教の教えに基づく生き方なのです。さすが仏教詩人の坂村真民さんです。簡潔にあらわされております。

ちなみに、人を騙し、人をいじめたり、踏みつけにしたりしている人はどうなるのでしよう。

人の不幸の上には自分の幸せは築くことはできません。そのうち大変な悪報がおとずれるのでしよう。皆さんの周りにもそのような人がいることと思ひます。

人生の早い段階で、気付けた方は幸せです。いかなることがあろう、悪の道、むさぼり・怒り・愚かの「三悪」の道を進んではなりません。一時は良くて、ゆくゆくは失うこととなるのです。仏法の因果応報なのです。

あの人は、むさぼりと欲で洗脳されておりますから。そのような方は周りでジッと見ていてください。観察していてください。どのような人生をおくることになるかを。



長崎の「平和祈念式典」では、麻生首相は広島と同様に事務方の用意した原稿を棒読みしたが、「一命をとりとめた方も癒やすことのできない傷跡を残すこととなられました」というくだりで、「傷跡・きずあと」ではなく「しようせき」と読み間違え、相変わらずの国語力の低さを披露した。（2009年8月9日）

日本が危ない

「みぞうゆう」とか、「踏襲・とうしゅう」を「ふしゅう」とか、「順風満帆・じゅんぷうまんぱん」を「じゅんぽうまんぱん」なんて読むのは、もともと、そういう読み方だと思ひ込んでた知能の低さの表

われですが、「頻繁・ひんぱん」を「ほんざつ」とか「はんざつ」とか、読み方を知らなかったんじゃないかと、パッと見た漢字の第一印象だけで、ウツカリと間違えた。パターン？。よ

要するに国民に対して真摯に接していない。上から目線、舐めまくっているのです。多くの人が投票した結果です。日本が危ない。